

「令和4年度 授業研究発表会」を実施しました。

グローバル教育推進グループ

テーマ 「教科横断的な深い学びの実践」

日時 2022年11月4日（金）

13:00～16:00 （研究授業＋研究協議）

場所 厚木高校（各教室，第一理科講義室，新体育館）

実施教科 国語（古典B），地理歴史（世界史A），数学（数学Ⅱ）

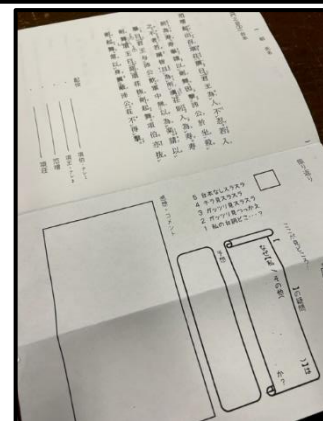
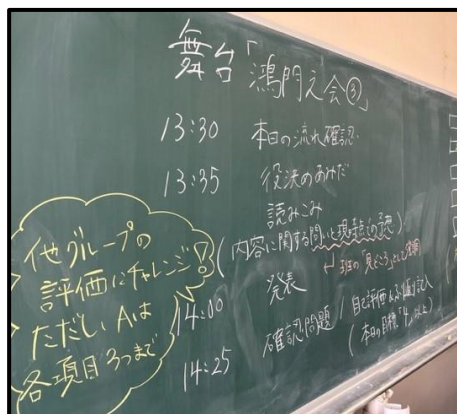
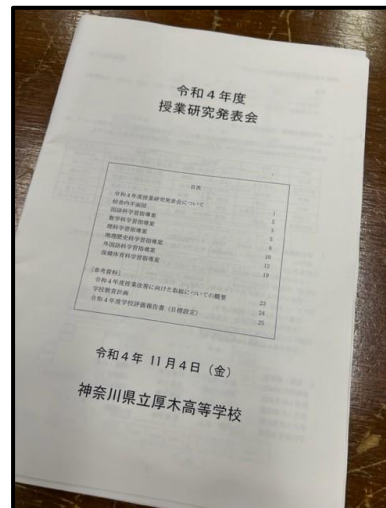
理科（化学），外国語（コミュニケーション英語Ⅱ）

保健体育（体育）

参加者 厚木高校全職員，県教育委員会指導主事（4名），県内他校教員（7名）

【国語（古典B）】～舞台「鴻門之会」～

教科書の漢文の範囲をグループで読み解き，内容に関する問いと予想を劇仕立てで表現していました。文章の背景を読み取り，班員で意見を出し合い，この物語でなぜこのようになったのか，について考え，表現に演出を加え，みんなの前で発表していました。



左上 ; 楽屋に見立てた教室

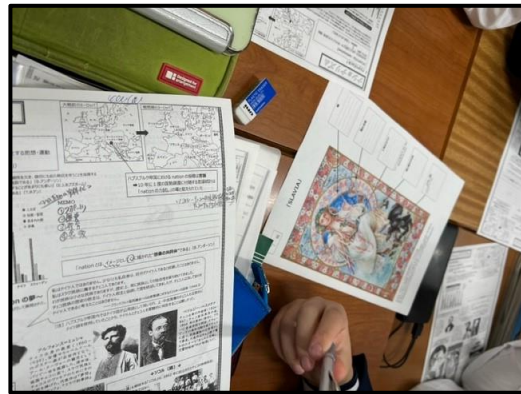
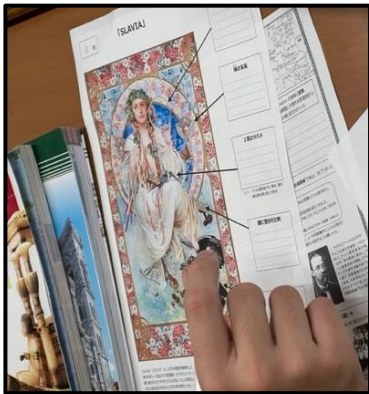
上中央 ; 本日の流れの様子

右上 ; 漢文から読み取った内容をみんなの前で表現している様子。

右 ; ワークシートの一例

【地理歴史（世界史 A）】～戦間期のヨーロッパとアメリカ～

芸術などの表象文化と歴史の繋がりを通して、ナショナリズムについて考える授業を実施していました。当時の芸術作品に込められた歴史的背景や思い（思想等）について、班員で議論しながら、歴史、文化、経済等をリンクさせながら考えて生徒たちは表現していました。

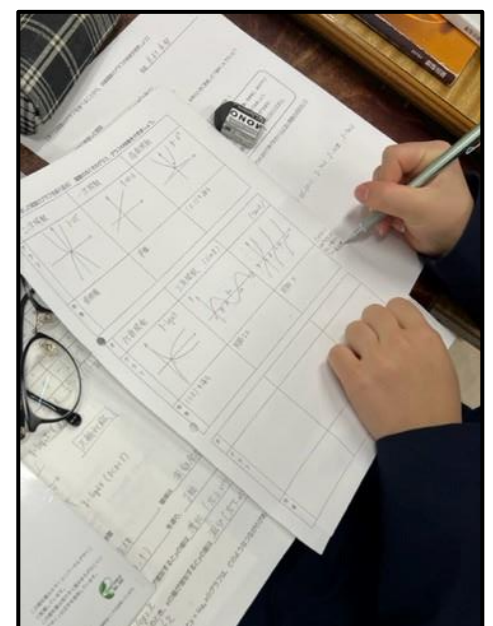
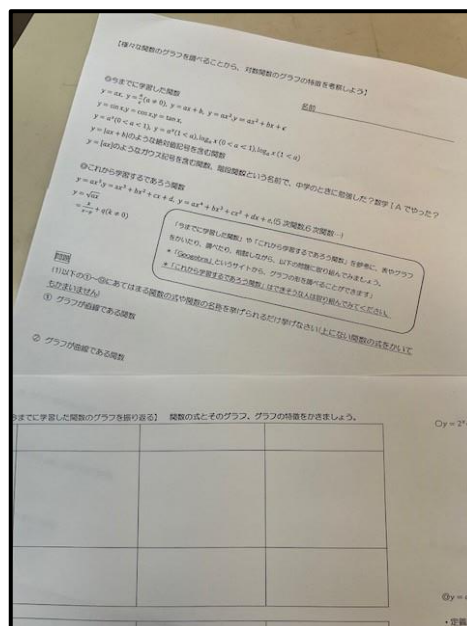


- 左 ; まずは一人で考えている様子
- 中央 ; オリジナル教材や教科書等を見ながら考える様子
- 右 ; 班員みんなで協議する様子。

【数学（数学Ⅱ）】～対数関数のグラフ～

対数関数のグラフが、他の関数において、共通している部分や異なっている部分を考え、実際、式やグラフを書いたり、特徴を考えたりして、理由を班員に説明することができように取り組んでいました。

- ・ いろんな関数の式やグラフを描いている様子。
- ・ このあと、携帯アプリの「Geogebra」を使って ICT を利用したグラフ作成も行っていました。



【理科（化学）】～脂肪族炭化水素～

飽和炭化水素の範囲で、アルカンの名称のルールや分子式を数式で一般化したときはどう表すか、について、分子模型を使いながら班員同士で話し合いながら考えていました。分子模型で物質を表現することで、回転する場所や、距離感を視覚的に感じ取っている様子でした。

- ・オリジナル教材やスライド資料を見ながら、班員で考えていました。
- ・たまたま作った分子が、ダックスフンドやチワワに似ていて可愛かったです。



【外国語（コミュニケーション英語Ⅱ）】

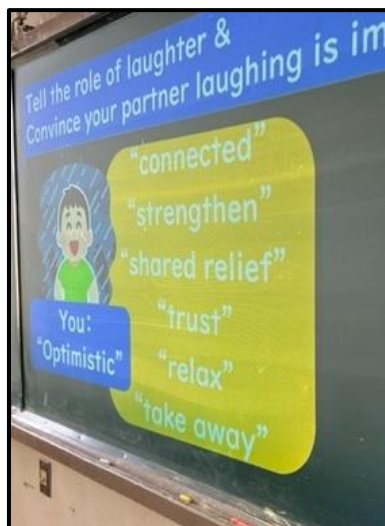
～Laughter is the Best Medicine～ 笑いのメリットとは

「笑う」ことによってもたらされるメリットを、科学、心理学、社会学的な観点から読み解く授業に生徒は取り組んでいました。普段何気なく起こる「笑い」という現象には複雑なメカニズムがあり、対人関係にも多く影響を及ぼす理由を、自分の考えを英語で伝える、ということに取り組んでいました。

左；黒板に投影されたオリジナルスライドの様子。

右上；ペアワークで自分の意見を伝えたり、相手の意見を理解したりする様子。

右下；教員の ICT 機材



【保健体育（体育）】～技術・作戦的課題の解決方法を考え、そして伝える～

卓球（ダブルス）の授業において、ペアとの意思疎通や自分たちの乗り越えるべき課題に向かい合うことはとても大切で、課題を見つけ、解決に向かう手立てをお互いで確認していました。体力の向上やフェアプレーを意識し、さらに技術面作戦面の向上について話し合いながら、刻々と向上していく授業を生徒たちは取り組んでいました。



左；卓球の用具

右；課題をチェックしながら、自分の考えを伝えたり、作戦を練り直したりしている様子。

【研究授業企画担当者より（感想）】

各教科（科目）とも、生徒がどう思考力を伸ばし、自分で考えたことをどうアウトプットするか、表現することができるか、といった、今求められている教育の根幹を実践するような授業でした。「ただ話し合っただけで終わる」ではないグループワークは、厚木高校のどの授業でも実施しています。今回の研究授業は、いわゆる“研究授業用”ではなく、一般的に普段から実践している授業の一部です。学校でしかできない授業をどの先生も実施しています。厚木高校のよいところは、授業中の生徒に笑顔があることだと思っています。

グローバル教育推進グループ（杉原）